

宇宙産業振興小委員会の 検討状況について

平成28年9月29日

内閣府宇宙開発戦略推進事務局

宇宙産業振興小委員会 開催スケジュール

- 第1回 日時 : 6月21日(火)
議題 : 宇宙産業の現状と課題について
- 第2回 日時 : 7月28日(木)
議題 : 宇宙産業の市場動向と宇宙産業(利用産業)の課題について
- 第3回 日時 : 8月25日(木)
議題 : 宇宙産業(ロケット・衛星・地上機器・部品等)の課題について
- 第4回 日時 : 9月20日(火)
議題 : 宇宙利用産業の課題と対応の方向性について
- 第5回 日時 : 10月19日(水)
議題 : 宇宙機器産業の課題と対応の方向性について
- 第6回 日時 : 11月中
議題 : 中間整理について

年始以降は、重点的に議論すべき課題の深掘りや積み残し課題について検討
来年春頃 宇宙産業ビジョン取りまとめ

第1回宇宙産業振興小委員会 ポイント

【開催日時】平成28年6月21日（火）13:00～15:10

【議題】

1. 宇宙産業振興小委員会について
 - ・ 高橋座長から、白坂委員、山川委員を座長代理として指名
2. 宇宙産業の現状と課題について
 - ・ 事務局及び株式会社サテライト・ビジネス・ネットワークの葛岡氏から、宇宙産業の現状と今後について説明

【主だった議論/コメント】

- ・ 宇宙産業を成長させるためには官民の役割を整理しながら、①ベンチャー・中小企業、異業種からの参入の促進、②政府として民間サービスを活用する仕組みづくり、③中短期（衛星・ロケット分野）、長期（惑星探査、有人等）に整理して戦略の策定を行うべき。
- ・ 我が国の宇宙産業は海外と比べて経済規模が小さすぎる。海外大手企業は安全保障がコアで、スケールメリットによってシェアを獲得。日本も国としての安全保障、技術振興等を踏まえて今後の方向性を決めるべき。
- ・ 宇宙に閉じたバリューチェーンで見るのではなく、他分野での宇宙利用によってこれまでにないことを可能とする「イネーブラー」としてどのような貢献ができるかをユーザーサイドの視点で考えるべき。
- ・ 産業振興のためには、JAXAの役割が重要であり、産業界との十分な対話の場を持つことや新技術が競争に貢献するようにすべき。
- ・ 民間企業が事業を行うための環境整備をしていただきたい。宇宙二法を着実に整備し、規制・基準を合理的で海外に比べて厳しい規制とならないようにしていただきたい。

第2回宇宙産業振興小委員会 ポイント

【開催日時】平成28年7月28日（木）9:30～11:45

【議題】

1. 宇宙産業の市場動向と宇宙産業（利用産業）の課題について

- ・ 事務局から国内・海外の宇宙機器・利用産業の市場構造の概観について説明
- ・ CSP Japan株式会社の金山氏から、宇宙ビジネスの革新的事例、第4次産業革命の宇宙への影響、日本が抱える課題等について説明
- ・ 小山（公）委員から、国際的にビジネスを展開する立場から最近の国内外の動向や今後の課題について説明

【主だった議論/コメント】

- ・ 国産製品のコストが海外製品のコストと同レベルとならないのは、元々、我が国の産業は官需依存で、コストダウンのインセンティブがないから。こうした問題意識を政策に入れると良いのではないか。
- ・ 衛星情報は単なるデータからナレッジになりえるが、ユーザがこれに対してどの程度の価値を見出していくら支払うのかが重要。ナレッジの付加価値とは、事業コストが下がる、今までできなかった新しいことができる、の2点に集約される。
- ・ アメリカでは、各業界にBig Dataの活用を考える企業があり、ユーザーとの橋渡しを行う役割を担っているが、日本にはそういった企業は少なく、ユーザー側で衛星情報の利用がそこまで意識されていない。宇宙データは数あるデータの中の一つなので、宇宙分野だけを詰めても仕方がない。
- ・ 他分野との融合のためにつなぐ人が必要ではないか。この観点で、スペース・ニューエコノミー創造ネットワーク（S-NET）のような活動は一層進めていくべき。
- ・ グローバルネットワークを持っているオールドスペースの大手企業出身が、ニューススペースに移ることをよく見かけるが、そういった人材流動は必要。

第3回宇宙産業振興小委員会 ポイント

【開催日時】平成28年8月25日（木）15:00～17:14

【議題】

1. 宇宙産業（ロケット・衛星・地上機器・部品等）の課題について

- 経済産業省 靄田宇宙産業室長から、我が国宇宙機器産業の現状及び経済産業省が取り組む宇宙用部品・コンポーネントに関する技術戦略等について説明
- 小山（浩）委員から、日本の宇宙機器産業の市場動向及び各種課題等について説明
- 松浦委員から、JAXAの産業振興活動等について説明
- 事務局より、宇宙機器産業の概観を補足説明

【主だった議論/コメント】

- 三菱電機は海外衛星製造メーカへも部品・コンポーネントを輸出しているが、衛星製造はQCD（コスト・クオリティ・デリバリー）で決まる世界。
- 大型衛星と小型衛星の調達の議論は分けて考えられるべき。小型衛星は生産技術革新で価格破壊が進む一方で、大型衛星については日本の技術力は高く、既存の市場をしっかりと守っていくべき。
- すでにサービス形態が決まっている大型衛星と異なり、小型衛星はどのようにキーとなるサービスを立ち上げるかが重要。
- 新しいサービスが生まれる際に、誰かがリスクをとって立ち上げる必要があるが、官民がそれぞれどのようなリスクを取るべきか考えるべき。
- 宇宙利用だけで完結するサービスはない。Big Dataの活用との組み合わせで新しい衛星サービスも生まれる。その際、政府はファーストカスタマーとなって市場をしっかりとつくと投資家は活動しやすい。最初の成功事例を作ることが重要。
- この委員会で議論すべき内容は環境整備。既存の大手企業とニューベンチャーの両企業が共に成長できることが大事であり、それがこの委員会の目的だと思う。